
株式会社ダイキアクシス

2025年12月期 連結決算概要

PROTECT × CHANGE

2026年2月13日

1 | 2025年12月期 連結決算概要

	2024年通期	2025年通期		2026年通期	
	実績	実績	前期比	予想	前期比
売上高	468.1億円	483.2億円	+3.2%	500.0億円	+3.5%
営業利益	10.4億円	12.7億円	+21.3%	14.5億円	+14.0%
経常利益	11.4億円	13.0億円	+14.0%	13.5億円	+3.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	3.5億円	4.6億円	+31.1%	5.4億円	+17.0%

2025年の状況

- 売上高：環境機器は大型案件進捗により堅調に増加、住宅機器も冷凍冷蔵・空調設備工事を中心に堅調に増加
- 営業利益：住宅機器が前期比大幅増も、環境機器が前期比減
 - 仕入価格・外注費等高騰分の販売価格への転嫁が進捗
 - 販管費：広告宣伝(各種PR施策)・地域貢献関連投資(企業版ふるさと納税)、デジタル投資(業務効率化・セキュリティ強化)、人的資本投資(ベースアップ・人員増強)

2 | 2025年12月期 セグメント別決算概要(環境機器)

 環境機器関連事業	2024年通期	2025年通期		2026年通期	
		実績	前期比	予想	前期比
売上高	236.4億円	246.8億円	+4.4%	255.0億円	+3.3%
セグメント利益(営業利益)	20.2億円	18.9億円	△6.5%	21.8億円	+14.8%
参考：経常利益	20.8億円	19.5億円	△6.1%		

2025年の状況

- 国内：大型工事案件の進捗、価格転嫁の対応進捗により国内売上高は前期比増
- 海外：インドネシアで前期に大型案件があった反動により、海外事業の売上高・利益ともに前期比減
- 地下水飲料化：プラント販売が減少も、エスコ契約やメンテナンスは堅調に増加
- 建物総合管理：ホームセンター店舗案件の新規受注に注力したことで売上高増加

参考情報

- 海外の状況【グループ決算への取り込みは3ヶ月遅れであり、2025年12月期に取り込んでいる海外数値は2024年10月～2025年9月】
 - インド：需要は堅調。製造方法や製造フローの見直し実施によりコスト・設備投資が先行中
 - インドネシア：売上確保のため工場系排水処理を受注できる体制に。顧客ニーズ・規制に合わせるため浄化槽のスペック見直しも
 - スリランカ：[グリーンラベル製品認証取得](#)、[大統領環境賞受賞](#)、[イラストコンテストの実施](#)や展示会出展等、ブランド力を強化中
- 仕入価格等上昇への対応
 - 建築材料等の仕入価格や外注費の値上がりは継続。原価試算に当たって単価見直しを細やかにする等、対応を進めている

3 | 2025年12月期 セグメント別決算概要(住宅機器)

 住宅機器関連事業	2024年通期	2025年通期		2026年通期	
		実績	前期比	予想	前期比
売上高	198.4億円	206.3億円	+4.0%	210.0億円	+1.8%
セグメント利益(営業利益)	4.5億円	7.1億円	+58.4%	6.8億円	△5.0%
参考：経常利益	5.4億円	7.9億円	+46.1%		


2025年の状況

- 住設販売・流通：新設住宅着工戸数が減少する中、エリア毎に各種取り組みを進めたことで、売上高は前期比で若干の減少に留まる
ホームセンター向け販売は消費意欲冷え込みや競争激化により、売上高減少
- 建築・設備工事：冷凍冷蔵・空調設備工事は、東日本エリアへの展開や夏季における猛暑の影響もあり売上高は大きく増加
農業温室工事は、前期に大型案件計上の影響により売上高減少
- セグ利益：仕入価格高騰分の販売価格への転嫁が進んだこと、粗利率の高い冷凍冷蔵・空調設備工事増により、利益額・利益率ともに増加

参考情報

- 従来の「売上(卸売)」を「住設販売・流通」、「売上(工事)」を「建築・設備工事」へと名称変更しています。
- 木構造事業：2024年より本格化、地域産材の利活用方法提案・構造設計・部材製造・販売・建て方支援等、幅広い業務を当社が請け負う。
- 総合スマートホームサービス「[HOMETACT](#)」：2024年より取扱開始、新築やリフォーム検討中のお客様へ新しい付加価値を提案

4 | 2025年12月期 セグメント別決算概要(再エネ)

 再生可能エネルギー 関連事業	2024年通期	2025年通期		2026年通期	
		実績	前期比	予想	前期比
売上高	27.0億円	24.3億円	△10.3%	31.6億円	+30.0%
セグメント利益(営業利益)	1.2億円	1.1億円	△5.2%	3.0億円	+155.6%
参考：経常利益	0.8億円	0.4億円	△19.2%		

2025年の状況

- 太陽光発電：売電売上高(FIT及びPPA)は堅調に増加、施設販売及び工事で前期に大型案件があった反動で売上高は減少
- 風力発電：FITによる売電売上高は堅調に推移
- バイオディーゼル燃料：東日本・日光エリアでの燃料販売増加・プラント売上計上により売上高・利益が増加

参考情報

- 太陽光発電：買収した子会社を中心とした顧客ニーズへの対応（PPAモデル、施設販売）
 - FIT施設：商業施設店舗屋根置き129サイトを中心に、全193サイトが稼働中
 - PPA施設：大口電力需要家向けに、自社所有の施設からの売電を2023年3月より開始、現在は36サイト稼働中
- 風力発電：FITによる売電施設、35サイト稼働中
- バイオディーゼル燃料：製造プラントのある愛媛だけでなく、需要の多い関東地方での事業展開を開始
 - 2024年5月『[BDFの安定供給を関東地方でも開始](#)』、2024年12月『[セブン-イレブン店舗への配送車両にバイオ燃料供給\(茨城牛久工エリア\)](#)』
 - 2025年8月『[東武グループが奥日光エリアで運行するバイオ燃料バスへ、バイオ燃料を供給](#)』

5 | 2025年12月期 セグメント別決算概要(その他)

その他 (家庭用飲料水事業・ ベンチャーキャピタル事業)	2024年通期	2025年通期		2026年通期	
		実績	前期比	予想	前期比
売上高	6.1億円	5.7億円	△6.1%	3.4億円	△41.2%
セグメント利益(営業利益)	△0.2億円	△0.2億円	—	△0.4億円	—
参考：経常利益	△0.5億円	△0.2億円	—		

2025年の状況

- 家庭用飲料水事業：ボトル型及び他社製全自動型ウォーターサーバーから、新製品である「アクシスウォーター」へ販売・契約を移行中
 - アクシスウォーターの契約数は順調に増加。アクシスウォーターはサブスクモデル（ストックビジネス・定期定額）であるため、ボトル型に比べ顧客売上単価は減少も、今後の契約数増や継続的な改善・サービス提供により、収益のさらなる積み上げを企図
- ベンチャーキャピタル事業：投資先のうち1件の持分を譲渡し、売却益を計上

参考情報

- 家庭用飲料水事業：アクシスウォーターの拡販に注力・経営資源を集中させることを目的として、2026年1月5日付で、ボトル型ウォーターサーバー事業を新設分割会社である株式会社クリクラ愛媛に承継させ、同新設会社の全株式を株式会社ナックへ譲渡
- ベンチャーキャピタル事業：2号ファンド(DAVPベンチャーTF for SUSTECH投資事業有限責任組合)を2025年1月に組成
1号ファンド(DAVPベンチャー1号投資事業有限責任組合)と合わせて計12社への投資を実施中